

台風 14 号の接近及び通過に伴う農作物等の技術対策

(農業戦略課)

1 農産物等への影響と技術対策

(令和4年年9月 16 日作成)

| 作物 | 想定される影響 | 技術対策 |
|-----------------|------------------|---|
| 水 稲 | 穂発芽 | <ul style="list-style-type: none"> 酒造好適米など穂発芽しやすい品種について、登熟が進み収穫間際の場合は、穂発芽による品質低下や収量減少のリスクを避けるため、台風前に収穫を行う。 |
| | 強風、潮風害、フェーン現象 | <ul style="list-style-type: none"> 潮風害を受けた場合は、用水管理者と調整の上、深水や水の掛け流しを行う。 収穫直前にあるものを除いて湛水する。 台風通過後は風が吹き止むまで湛水し、その後は間断かん水に戻す。 |
| | 倒伏 | <ul style="list-style-type: none"> 湿田で腐敗、穂発芽の恐れのあるものはできるだけ早く起こすか、登熟状況によっては刈り取ってハザ干しする。 刈取りの目安は出穂後 40 日程度とする。 |
| | 冠水、海水の流入 | <ul style="list-style-type: none"> 極力排水に努める。 塩水冠水田は極力排水させた後に水を掛け流す。 冠水被害を受けた稲は水分調節機能が低下していることから、田を急に乾燥させない。 |
| 転作大豆 | 冠水 | <ul style="list-style-type: none"> 排水対策の実施、停滞水の排除（排水溝など） |
| 施設園芸 (野菜・花き) | 強風等による破損 | <ul style="list-style-type: none"> 破損箇所の補修。 ビニールハウス、パイプハウスの台風対策資料を参照（「施設園芸における台風・強風対策マニュアル」等） http://www.pref.shizuoka.jp/sangyou/sa-310/kisyou/tai fuutaisaku20120723.html 天候が回復した後、被覆資材、支柱、防虫ネット等の栽培施設や資材の点検及び修復を行う。関連施設（、タイマー、環境制御機器等）については、速やかに作動状況の点検を行う。 |
| | 冠水・浸水 風雨の吹き込み | <ul style="list-style-type: none"> 排水対策の実施。 泥の付着がひどいときは噴霧器で洗い流す。 誘引、支柱の立て直しはなるべく早く行う。 |
| | 潮風害 | <ul style="list-style-type: none"> 潮風害を受けた場合は、用水管理者と調整の上、なるべく早く水洗いして塩分を流す。 周年作付けの軟弱野菜で被害が大きい場合、次作の準備を早めに行う。 |
| いちご (育苗ほ) | 冠水・浸水、茎葉 損傷 | <ul style="list-style-type: none"> 排水対策の実施。 泥土の洗い流し。 炭そ病の予防。 肥料分の流亡が考えられる場合は、薄い液肥を散布し草勢の回復を促すが、窒素成分の供給過多にならないよう注意する。 |

| | | |
|----------------------|---------------|--|
| ねぎ (白ねぎ) (葉ねぎ) | 冠水 | <ul style="list-style-type: none"> ・排水対策の実施。 ・泥土の洗い流し。 ・白絹病予防 ・小菌核腐敗病予防 ・軟腐病予防 ・被害が大きい場合はまき直し、作型を変更（白ねぎ）。 |
| さといも | 茎葉損傷 | <ul style="list-style-type: none"> ・草勢の回復を待ってから追肥と土寄せ。 |
| 甘藷 | 冠水 | <ul style="list-style-type: none"> ・排水対策の実施。 ・泥土の洗い流し。 |
| わさび | 土砂の流入 | <ul style="list-style-type: none"> ・部分的な流入は正常な部分を通常管理。 ・収穫できるものは早めに収穫し、終わった場所から土砂搬出。 ・大規模流入は直ちに復旧するが、作業安全に十分注意する。 |
| | 田の流失 | <ul style="list-style-type: none"> ・収穫できるものは早目に収穫する。 ・一部の場合は修復し、被害が大きければ田を作り直す。 |
| 露地野菜 (全般) | 冠水・浸水 | <ul style="list-style-type: none"> ・排水対策の実施。 ・泥土の洗い流し。 ・畝の崩れ、株元の露出、土壌表面の固結がみられた場合、天候回復後に畝直し、株元への土寄せ、畝面の軽い中耕を行う。 |
| | 潮風害 | <ul style="list-style-type: none"> ・潮風害を受けた場合は、用水管理者と調整の上、なるべく早く水洗いして塩分を流す。 |
| キク及びその他の花き類 | 冠水 | <ul style="list-style-type: none"> ・排水対策の実施による湿害回避。 |
| | 潮風害 | <ul style="list-style-type: none"> ・潮風害を受けた場合は、用水管理者と調整の上、なるべく早く水洗いして塩分を流す。 |
| | 倒伏 | <ul style="list-style-type: none"> ・倒伏した株は早急に立て起こし、茎や花穂の曲がり防止する。 ・折れた茎葉は除去し、適切な薬剤散布等により、病害の発生防止に努める。 |
| 柑 橘 | 収穫対策 | <ul style="list-style-type: none"> ・極早生みかんなど。収穫可能な果実は事前に収穫する。 |
| | 折れ枝、裂け枝、倒伏樹対策 | <ul style="list-style-type: none"> ・根元がゆすられた幼木、若木の倒伏樹では、できるだけ早く引き起こして根元を固め、支柱を立てて固定する。 ・折れ枝や裂けた枝は切除し、切り口に癒合促進剤を塗布する。 |
| | 潮風害対策 | <ul style="list-style-type: none"> ・用水管理者と調整の上、6時間以内に10a当たり2トン程度の散水を行う。 ・落葉した木では、落葉の程度に応じて早期に摘果する。落葉程度が激しい木では、樹勢回復を目的に全摘果する。 ・枝幹の日焼けを防ぐため、日焼け防止剤を塗布、又は散布する。 |

| | | |
|-------------|-----------------------------|--|
| 柑 橘 (続き) | 大雨対策 | ・排水路、排水溝を点検し、排水を徹底する。 |
| | 強風対策 | ・ハウスや防風ネット、マルチ資材を補強する。 |
| | かいよう病対策 | ・台風の影響を受けると、葉や果実が傷つき病原細菌の感染率が高まるので、発病が予想される場合は、台風通過前に薬剤散布を行う。 |
| 落葉果樹 | 折れ枝、裂け枝、 倒伏樹対策、潮風 害対策 | ・柑橘に準ずる。 |
| | 収穫対策 | ・ナシなど収穫可能な果実は事前に収穫する。 |
| | 病害対策 | ・強風を受け、枝葉、果実に傷がつき病原菌が感染しやすくなるので、台風通過後に殺菌剤を散布する。 ・園地の排水に努めるとともに、落果や腐敗果、落葉を速やかに園外に搬出する。 |
| 茶 | 潮風害 | ・葉に塩分が認められたら、用水管理者と調整の上、4時間以内に4～5ト/10a程度散水する。 |
| | 幼木の被害 | ・風によって倒伏または幹が回された場合は、早めに土寄せし、しき草を補給し、地際部や根を保護する。 |
| | 新芽の風ずれ | ・被害芽を摘採する場合は、できるだけ分別製造する。また、摘採まで日数がある場合は、傷が治癒してから摘採する。 |
| | 病害対策 | ・強風により葉ずれ葉いたみがあった場合は、殺菌剤を散布し、特に赤焼病菌の侵入を防止する。 |
| | 冠水・浸水 | ・排水溝のゴミを取り除き、排水を徹底する。 |
| 家 畜 | 冠水及び風雨の吹き 込み (畜舎) | ・家畜の死亡被害があった場合は、速やかに化製場等に搬入するなど適切な処理を行う。 ・雨樋、水路の掃除など実施し排水に努める。 ・冠水した畜舎・設備については、速やかに水洗・清掃、消毒及び敷料の入れ替えを実施する。 ・特に搾乳機器は、消毒等の衛生対策を徹底する。 ・電気機器の使用前には、必ず点検整備を行い、漏電、感電事故対策を行う。 ・水を被った飼料、乾草にカビ、変敗が認められた場合は、家畜への給与を中止し、堆肥化等の適切な処理を行う。 |
| | 強風 (畜舎) | ・事前に、畜舎・堆肥舎等の点検及び補強を行っておく。 ・天候回復後、畜舎・堆肥舎・柵・防鳥ネット等に破損や汚染がないか確認し、必要に応じて補修・洗浄・消毒を行う。 |
| | 停電 | ・非常用発電機がある場合には、使用できることを確認しておく。 |
| 飼料作物 | 冠水 | ・排水不良の場合は、明きよ等を設置し湿害の防止に努める。 ・コーンなど生育中の飼料作物は、中耕(土寄せ)、追肥を行い、倒伏防止のための栽培管理に努める。 |